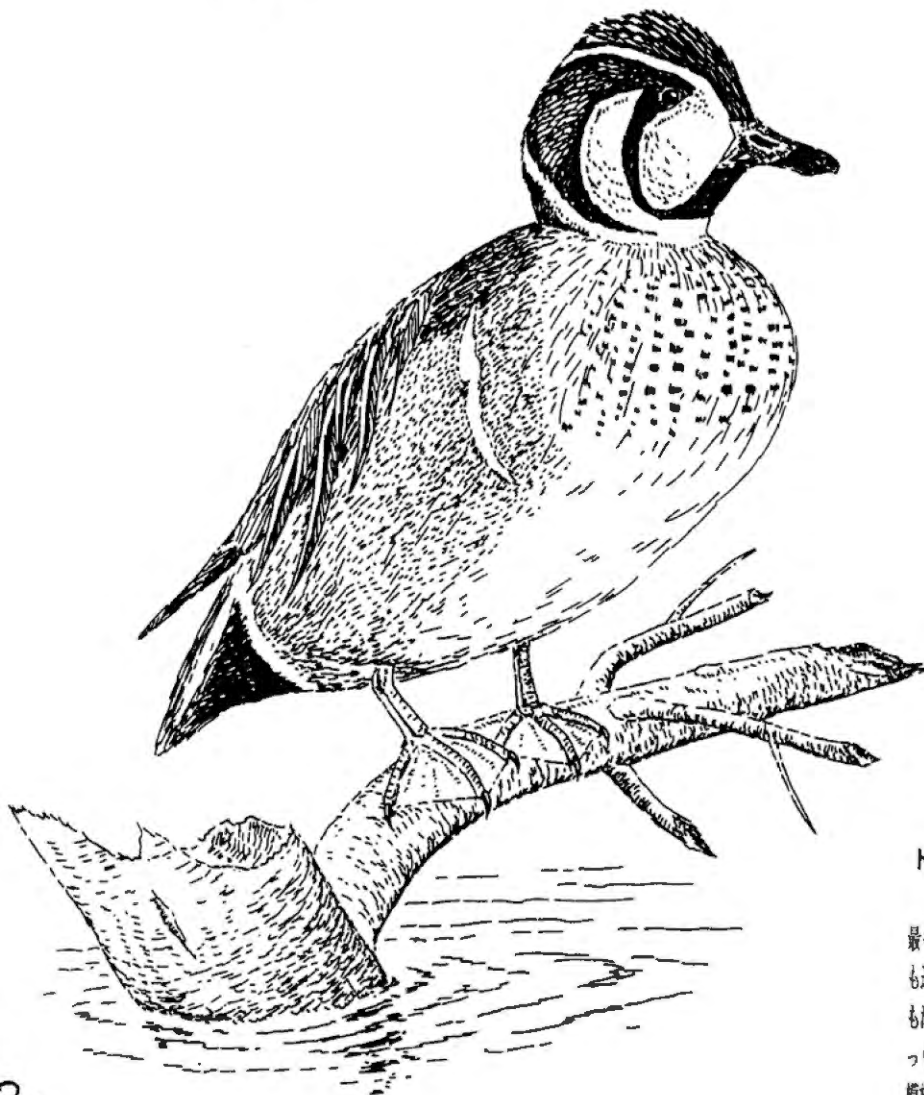


トモエガモ



AL.

トモエガモ

ヨシガモ、オンドリと並んで極東の最も美しい鴨。木曾川でも見られるが、いつも速くからしか見られない。この年は幸いにも津市一身田新池に飛来し、かなり近くでじっくりと観察することができた。複雑な顔の模様、三色に染め分けた養毛、いつまで見ても飽きることはない。

昨年暮れ、元三重大学教授の山下善平先生が、ホテイアオイの群落にウグイスが棲みつき、また、その葉をヒドリガモが食べているということを知らせてくださいました。

このホテイアオイという植物はミズアオイ科の水生植物。熱帯アメリカが原産で、日本では暖地に帰化した多年性植物。普通は、葉柄が10~20cmの長さで、中央付近は卵型にふくらみ、浮き袋の役をしている、俗に金魚草という名前で、誰もがよく知っている植物です。

先生のお話では、それが今年の猛暑で、津市上浜町の兵丹池では異常繁殖して密集し、平均80cmほどの葉柄が立ち並び、わずかな開水面を残して、全面がこのホテイアオイとなってしまったというのです。初冬に入ると、越冬にやっていきたウグイスが、ホテイアオイの群落の中にもぐり、池に発生するユスリカ等を食べて生活していました。しばらくすると、ヒドリガモの群れが訪れ、彼等は、ホテイアオイの周辺部から、順に奥へ向かって葉を食べだしたのです。するとブッシュ状だったホテイアオイの群落はどんどん食べ尽くされ、ウグイスは、陸地のブッシュへ移動してしまい、ときどき採食のために岸辺に姿を見せるだけになりました。やがて寒波がやって来て、残っていたホテイアオイは水面上が枯れだし、少しずつ消滅しはじめたというのです。

このヒドリガモは、ユーラシア大陸や北米にも分布し繁殖します。日本へは越冬しに来る野鳥です。ホテイアオイの原産地、南アメリカにまで越冬しに行くかどうかは、私は知りませんが、水生植物とはいいながら、恐らくふだん食べられないホテイアオイを食べる

ことは、彼等の食文化としては、極めて冒険的なことでしょう。

また、ウグイスがユスリカなどを採食するために、普段生活していない環境のホテイアオイのブッシュの中に、しばらく滞在していることについても、外敵（ネコ、イヌ等）に攻撃される危険が少ないこともあって、適応しようとしていることは大変面白い事実であると、私は興味深くその書簡を拝見しました。

もう一つは、私の家の庭のキンカンの木が、今年の異常気象で、開花が狂い、三度にわたって花が咲きました。そのせいか例年より実が小さく、直径は、約1.5から2.5cmしかありませんでした。ところが、猛暑だったせいか、その実が例年より甘いのです。それを見つけたヒヨドリが、昨年暮れごろから毎朝、仲間を集めて食べに来ます。驚いたのは、径2.5cmほどの実を、せいっぱい口を開け、枝にしっかりとつかまって、眼を白黒させながら、飲みこんでいます。その姿の面白さにしばらく見とれているのですが、大きい実からえらんで食べて行くようです。

さて、私たちはややもすると、珍しいものとか、貴重なものにとらわれがちになり、日常のありふれたものや自然の動きについて見落したり、無関心であったりします。実をいうと、自然と共存して行くためには、こうしたありふれた諸現象に興味深く、「どうして」「なぜ」という疑問を持って観察することが最も大切なことではないでしょうか。

そこで、今年は、野鳥たちのなにげない行動からそういった現象を学びとり、未知の世界を、みなさまと共に見つめてみたいものだと思います。

ヒシクイに逢いました

三村 明子

11月の第二土、日、念願の片野の鴨池観察館に行ってきました。この数日前に電話で問い合わせたところ「もう来ているが、10時頃までに来ないと逆光で見にくい」との事。時間を気にしながら9時15分入館。胸ワクワクで

備えつけのフィールドスコープを覗き込むと、足や首に標識をつけたものも含めていっぱいいました。近くにはマガンもたくさんいます。共に私達には初めての鳥でしたが、その違いもはっきり分かり、今後は間違えずに識別で

きると思います。

初めてといえばトモエガモもそうです。「歌舞伎役者の顔みたい」とは娘の弁。遠くの芦の茂った小さな水面に時折その姿を見せてくれました。50とか100の単位で渡ってくる所は日本で唯一という話でした。近くにいた人が「昔は（といっても戦後）ガンを獲って食べたものだ。あの頃は何万も渡って来て、

獲ってもとって減らなかった。しかし、今では何もしなくても減っていく」と話していたのがとても印象的でした。

余談ですが北陸は今、越前カニの真っ盛り、今年は去年の半値近くということで、私達でも何とか手に入れることができました。三国の田島商店（三国港の出光スタンド横）がお勧めです。

霞埠頭（四日市市霞）にて

濱中勝彦

野鳥の会に入会して2年目に入る1992年2月頃から、毎朝出勤前に20～30分ほど霞埠頭にて、持参のお茶を飲みながら、また、NHKのFMクラシックを聴きながら鳥見をするようになりました。冬の友達はカンムリカイツブリで、この年の夏の友達はコアジサシで、1年を通して楽しめました。今回は、カンムリカイツブリについて。

1. 朝8時頃、カンムリカイツブリたちは、それまで各自好きな所で海に潜り魚を捕って朝食をすませた後、自然とこの場所に集まって来ます。ここは北と西に防波堤があって風波を防ぎ、船の通行もないのでゆっくりと食後の休憩をとれるからでしょう。羽づくろいをしたあとは、体をまるでお供え餅のように丸く扁平にして、早くもお昼寝。なるほど、これが1番安定する。波にゆらゆら揺り籠さん。

2. ある時、双眼鏡で観察していると、彼氏がアシノビパーをしました。カンムリカイツブリは、足をよく使って泳ぐので、休憩中にしきりと足の伸びをします。でも、この時は足をパッと開いていました。その足が、なんと、枯葉を3枚集めたように指が分かれているのが見えました。恥かしながら、この時はまだカンムリカイツブリの足の構造を知らなかったもので、本当にビックリしました。

図鑑で調べましたが、カイツブリの足は図に描いてありません。次の改訂の時は、ぜひ描いて欲しい。再度確認をしようと観察をしましたが、やっと1年後に確認できました。

3. 春は恋の季節。カンムリカイツブリにとっ

てもそうです。繁殖羽がのびきる頃、雌雄の2羽が向かい合って、愛の確認のダンスをします。向かい合って首を激しく振ったあとで、長い首を後ろにたおし、それはそれは優雅に背中の中羽根をクチバシで首から尻尾の方に向かってすくいます。まるで、バレリーナが踊るように。頭が角刈りのようなので勝手にスポーツマン的なイメージを持っていた私には、とても印象的でまた、感動的な光景でした。

恋の季節はまた、失恋の季節でもあります。本人に確認したわけではありませんが、多分、相手が見つからずにイライラしている為でしょうか、以下の行動がこの時期、観察されます。



- *：首を前に伸ばして、他につっかかる。
- *：水に潜って、水面に浮いているものの足をつつく。突っつかれたほうが、水面を逃げ惑う姿が観察されます。

ここ霞埠頭は景色は殺風景ですが、以上のような観察ができますので、ぜひ、一度行ってみてください。カンムリカイツブリのイメージが、かなり変わるかもしれません。

鍋田近況

米倉 静

鍋田干拓では今日もワシタカたちが獲物を追いかける姿が見られます。2月5日の草焼きで、いつものコミミズクたちの集合場所もこんがり焼かれてしまい、姿を見せなくなりました。今度はどこで姿を見せるのでしょうか。

今は、運がよければ（できれば風の強い日）、オオタカ、ハヤブサ、ハイイロチュウヒ♀、♂、チュウヒ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、ミサゴ、コミミズクの雄姿が見られます。

また、今年はオオハシシギが越冬中。弥富野鳥園には、なんとアカゲラとアオゲラも居着いているとか。園内の林には入れないので、まだ当方はアカゲラしか見ていませんが、オオタカは展望室からも時々姿が見られます。

一度ぜひ冬の鍋田干拓を見に来てください。ただし、防寒の用意は周到に。軽装でコミミを追いかけていて、かぜを引き、ひどい目にあいました。

野鳥とのふれあい

矢田栄史

私は小さい頃から生き物が大好きでした。小学校のころからNHKテレビの「自然のアルバム」や「野生の王国」といった番組を好んで見ていました。また、その頃兄がハトを飼ったり、メジロを飼ったりしていたことも影響しているようです。

時が流れ、学生時代はワンダーフォーゲル部というクラブに入り、各地の山を登っては、野鳥の声を聞いたり姿を見ていました。その頃は特に野鳥に興味があった訳ではありませんが、南アルプスの山ではすぐ近くでライチョウを見たりと、今思えばすごい体験をしていたものです。

さらに時が流れて、2年ほど前に初めて野鳥の会主催の探鳥会に、子どもを連れて参加しました。鳥の名前もほとんど知りませんでしたが、昔から好きだった自然との触れ合いに心躍るものがありました。去年は主に地元の三重県民の森へよく通いました。コゲラ、カケス、ジョウビタキ等など行くたびに自分にとって初めて見る野鳥と出会うことができ、本当に素晴らしいひとときを過ごすことができます。10月下旬にはアカゲラ、11月に入って、アオジ、ルリビタキ、アオゲラと図鑑で

しか見たことがない種類との出会いは実にうれしいものです。

野鳥を見るということは、それを取りまく自然も非常に重要な要素です。よく言われるように、いつまでも自然を残すよう努力しなければなりません。年に数回、鈴鹿の山にも登りますが、

頂上から見ると、特にゴルフ場は目をおおいたくなるような無残な姿です。

野鳥に限らず、多くの生き物が絶滅の危機にあります。

今、自分たちが出会える生き物たちが、子の代、孫の代になっても生き残っていただけるよう見守っていきたいものです。私は今年も県民の森へ行き、自分なりの新しい発見を楽しみにしています。



シロチドリの保護区設置要望のために

木村裕之

県議会議員の森田治先生は、元四日市の中学校の先生で、教育関係に力を発揮されてい

る方です。県政学習会にも時々出席しましたが、四日市港管理組合も担当されている関係

で、その話の中にもよく四日市港の整備の話が出てきます。現在四日市港には霞と石原沖の2カ所（計画中を含めると更に2カ所）の埋め立て工事があり、特に石原沖は港の浚渫土砂の埋め立てが主目的で、土地の活用については特に決まっていないう状態です。これはシロチドリやコアジサシの保護にとっても一つのチャンスだと感じました。保護のためにはいろいろな側面から迫っても損はない、啓蒙と将来のために種を蒔いておくつもりで1月中旬、森田先生に埋め立て地に保護区を確保できないだろうかという趣旨の手紙を書いた訳です。ところが・・・1週間ほどして森田先生から電話があり、「これはいい話、私も力になりたいが、専門的な事が分からないので、四日市港管理組合の部長に説明してほしい」ということになり、1月26日急に四日市港管理組合まで行ってきました。

森田先生と技術部長、総務部長と私の四者で、四日市港の図面と鹿島さんに描いてもらったイメージイラストを囲んで話し合ってきました。その内容を要約すると、

- ・石原沖は四日市港の浚渫土砂と産業廃棄物の埋め立てが主目的で、できるだけ長く使っていきたい。用途については未定。面積は85ha。
- ・野鳥の繁殖地、環境教育の場として1ha確保してほしい。
- ・現在、周囲の堤防の造成段階で、土地の完成が、平成13～15年頃なので、今すぐには確約できない。先の景気動向にもよる。
- ・現実の方向性としては、
 - ①土地を購入した企業が確保しなければならない「緑地」の解釈を広げ、企業の理解を得る。
 - ②四日市市か三重県に予算を付けて買い取ってもらう。1坪約35万円、総額約9億～10億円（森田先生はこの方向）

③5～10年とかの土地が安定し売れるまでの期間限定で、保護区にする。これなら簡単にできそう。

- ・もう少し土地活用が具体化した段階で要望書を出してほしい。
- ・3～4年先をめどにして、次の部長に申し送ってもらう。

以上のような内容の話し合いだったわけですが、先方にもある程度こちらの意見を理解してもらえ、前向きな方向性を提示してくれたことは評価できると思います。しかし、話の中で「シロチドリはどこでふんをするのか」とか「保護区を造ったら他の鳥が集まって来はしないか」「管理組合の池のコイをウが見つけて全部食っていった」「以前新聞記事で、換気口が鳥のふん（糞材）でつまって死んでも補償してもらえなかった」「伊坂ダムはカモのふんで困っている」などなど私たちと根本的に違うことは、鳥は「汚いもの」「害のあるもの」というイメージがすごく強いことにあります。確かに要望を何度も出すことも大切ですが、県や土木、河川、港湾関係などの上層部の人たちへの啓蒙活動も並行して行う必要があることを痛感しました。

最後になりましたが、ご多忙の中、この話し合いの場を設けていただき、貴重な力添えをいただいた森田治先生に深く感謝の意を表します。



探鳥会報告

- 亀山（亀山市）水曜探鳥会（江が室～亀田～若山）
 - ・日時：1994年11月16日（水）曇 09:20～12:05
 - ・担当：植原葵

・参加者：

(以上13名)

- ・観察種：カワウ、ゴイサギ、カルガモ、ハシビロガモ、トビ、ノスリ、キジ、キジバト、カワセミ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、イカルスズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上30種)
- ・メモ：テーマ「鳥と木の実」は今回もうまくいかなかった。ただ、ヒヨドリがエノキの実を食べただけが見られた。久しぶりにトビが公園の上を帆翔した。

○勾玉池（伊勢市）探鳥会

- ・日時：1994年11月19日（土）晴 09:00～11:00
- ・担当：今村禎
- ・参加者：

(以上28名)

- ・観察種：コサギ、アオサギ、マガモ、コガモ、トビ、バン、キジバト、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、シロハラ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上18種)
- ・メモ：エクリプスのカモを観察できるかと思いましたが、ほとんど換羽を終えていて、換羽中のマガモを一羽観察できたただけでした。双眼鏡なしで、マガモのカールした羽毛まで確認できた探鳥会でした。

○県民の森（三重郡菰野町）

- ・日時：1994年11月20日（日）晴 09:00～11:45
- ・担当：榎原薬、木村京子
- ・参加者：

(以上52名)

- ・観察種：ノスリ、キジバト、コゲラ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、シロハラ、ウグイス、エナガ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル、ハシブトガラス (以上18種)
- ・メモ：三重県自然観察指導員連絡会との合同探鳥会だったので、思いのほか参加者が多く、2つのコースに分けて歩くことにした。野鳥は、じっくりと観察できる種類は少なかったが、植物や野鳥の食べる木の実なども観察した。最後に全員が揃ったところで、ノスリが飛んでしめくってくれた。



○三重愛知合同・木曾岬鍋田干拓地探鳥会

- ・日時：1994年11月27日（日） 10:00～12:00
- ・共催：愛知県野鳥保護連絡協議会
- ・担当：藤田克三
- ・参加者：

(以上20名、愛知26名)

- ・観察種：カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、トビ、ミサゴ、ハイタカ、ノスリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、キジ、タゲリ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ツグミ、セッカ、シジュウカラ、ヒバリ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上40種）
- ・メモ：今回は三重・愛知合わせて46名もの参加者であった。さすがに冬の木曾岬・鍋田は人気がある。多くのワシタカ類に出会えてよかった。干拓地の利用については人間の都合だけの計画がたくさんあるが、だからこそサンクチュアリ化がもっと強く望まれる。

○亀山第1金曜探鳥会（椿世～亀田～椿世）

- ・日時：1994年12月2日（金）晴 09:00～11:45
- ・担当：植原泰
- ・参加者：（以上7名）
- ・観察種：カワウ、コサギ、アオサギ、ケリ、クサシギ、イソシギ、キジバト、カワセミ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ（以上30種）
- ・メモ：1. 本日も逆まわりしたが、最初の1時間でほぼ今日の全種を見聞きした。
2. 天気がよくなったためか、又は、ノスリがいなかったためか小鳥がよく鳴いた。
3. 終了直前に、キジバトの長行水（腹を水につけてじっとしている）を終わるまで見ていた。

○穴川（志摩郡磯部町）探鳥会（三重動物学会の観察会と合同で開催）

- ・日時：1994年12月4日（日）晴 10:00～12:00
- ・担当：今村禎
- ・参加者：

（以上25名・野鳥の会参加者）

- ・観察種：カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、ハヤブサ、ケリ、イソシギ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス（以上37種）



カモ総数3,000±、カワウ200±

- ・メモ：まずハヤブサの登場で始まった穴川探鳥会、途中の遊歩道では双眼鏡なしでメジロ、エナガ、シジュウカラの群れを観察し、チュウヒ、ミサゴが上空を旋回するぜいたくな探鳥会。強風のためカモたちが見ずらかったのがチョッピリ残念だったけど満足な探鳥会でした。

○中央緑地（四日市市）探鳥会

- ・日時：1994年12月6日（火）晴 10:00～12:00
- ・担当：濱中明代、鹿島素子
- ・参加者：

（以上14名）

- ・観察種：カワウ、ダイサギ、コサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、イソシギ、ユリカモメ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上27種)
- ・メモ：ツグミの数が増え、公園のあちこちで見られた。ユウカリの白い花にはメジロ、ヒヨドリ、水路にはセキレイ類、天白川にはカモ、カワセミ、ユリカモメなどいろいろな種類をゆっくり見ることができた。探鳥会後の食事の時に、楽しく鳥を見る探鳥会から一歩進んで、鳥の生態なども勉強する探鳥会もしてほしいという意見があった。

○坂内川（松阪市）平日探鳥会

- ・日時：1994年12月8日（木）晴 09:30～12:00
- ・担当：宮田たつ、中村洋子
- ・参加者：

(以上10名)

- ・観察種：カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、トビ、タカブシギ、イソシギ、ユリカモメ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上27種)
- ・メモ：川の水が澄んでいて、カイツブリのもぐって泳いでいく様子や、コサギが銀色の魚を次々と取って食べるのもよく見えた。

○亀山（亀山市）水曜探鳥会（江が室-亀田町-若山町）

- ・日時：1994年12月14日（水）晴 09:20～12:00
- ・担当：楢原泰
- ・参加者：

(以上9名)

- ・観察種：カワウ、コサギ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、バン、キジバト、カワセミ、コゲラ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上24種)
- ・メモ：風強く寒い日のためか、鳥が鳴かず飛ばずの状態であった。しかし、強風に巻き上げられたカエデの赤や黄の葉が、青空をバックにして舞うさまも捨てがたいものがある。

○安濃ダム（芸濃町）探鳥会

- ・日時：1994年12月23日（金）晴 10:30～12:00
- ・担当：平井正志
- ・参加者：

(以上30名)

- ・観察種：カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、トビ、タゲリ、ユリカモメ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、カワラヒワ、ムクドリ、ハシボソガラス (以上25種) 他タカSP.
- ・メモ：比較的暖かい日で予想より多くの参加者が集まった。目当



でのオシドリは集合場所からは観察できず、展望台へ移動。オシドリは対岸で休んでいた。かなり距離があり、日陰で、条件はあまり良くなかったが、じっくりと観察できた。そのほかにはマガモ、カルガモが見られた。また上空をタカが一羽通過。大きさからしてクマタカであろうと思われたが確認できなかった。その後、横山池に移動してカモ類を観察。ミコアイサが、♂、♀共に見られた。

○愛知三重合同・木曾岬鍋田干拓地探鳥会

- ・日 時：1994年12月25日（日）晴 10:00～12:00
- ・共 催：愛知県野鳥保護連絡協議会
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：

（以上三重15名、愛知13名）

- ・観察種：カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ノスリ、ハイイロチュウヒ、チュウヒ、チョウゲンボウ、キジ、ケリ、タゲリ、オオハシシギ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、セッカ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上40種）
- ・メ モ：1994年最後の合同探鳥会。今年はよく珍鳥が出る年だった。

○亀山（亀山市）第1金曜探鳥会（椿世－亀田町－椿世）

- ・日 時：1995年1月6日（金）晴のち雪しぐれ 09:00～12:45
- ・担 当：榎原泰
- ・参加者：

（以上7名）

- ・観察種：カワウ、コサギ、ケリ、クサシギ、タシギ、ノスリ、キジバト、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、シジュウカラ、ヒガラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上31種）
- ・メ モ：濡れ羽色のカラスが、縄張りにドカドカと入ってきた人間たちを、早く出ていかないかなぁ～とうかがう。ジョウビタキの♀が人を恐れず松の実を食べる。ヤマガラ、ヒガラなど、終了時間を1時間も超過するほど見ていた。今日の見どころとしていたミヤマホオジロ、ルリビタキが見られなくて残念だった。

○亀山特別探鳥会：志登茂川－安濃川－岩田池（津市）（臨時に開催）

- ・日 時：1995年1月11日（水）晴時々曇 09:35～15:00
- ・担 当：榎原泰
- ・参加者：

（以上4名）

- ・観察種：カイツブリ、カワウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ウミアイサ、セグロカモメ、ウミネコ、ユリカモメ、アオサギ、シロチドリ、ケリ、ハマシギ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ツグミ、メジロ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス（志登茂川、安濃川以上29種）
カワウ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、オカヨシガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、コサギ、オオバン、トビ、チュウヒ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、アオジ、ハシボソガラス（岩田池以上23種）

- ・メ モ：亀山水曜・金曜探鳥会では見られないカモ、カモメ類の勉強に第2回目として「（亀）山から海へ」出た。岩田池にも寄った。

○松阪庄（松阪市）土曜探鳥会

- ・日時：1995年1月14日（土）曇時々小雪 09:30～11:30
- ・担当：中村洋子
- ・参加者：

（以上11名）

- ・観察種：カイツブリ、カワウ、オシドリ、コガモ、イソシギ、キジバト、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、カワガラス、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス（以上24種）
- ・メモ：雪が時々舞うお天気でしたが、ビワの花にたくさんのメジロ、ヒヨドリが蜜を吸いに来ていました。櫛田川では、カワガラスがさかんに潜っていた。又オシドリの泳ぐ姿、歩く姿、飛ぶ姿も見られました。

○亀山（亀山市）水曜探鳥会（江ヶ室－亀田－若山）

- ・日時：1995年1月18日（水）晴 09:20～12:15
- ・担当：榎原泰
- ・参加者：

（以上8名）

- ・観察種：カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、バン、ケリ、キジバト、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上28種）
- ・メモ：探鳥会終了後、ノスリ（？）が出、帰路八幡神社の森にアオバト（3）を見た。

○岩田池（津市）平日探鳥会

- ・日時：1995年1月20日（金）晴 09:30～12:00
- ・担当：中村洋子、榎原泰
- ・参加者：

（以上16名）

- ・観察種：カワウ、ダイサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、チュウヒ、バン、オオバン、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、ベニマシコ、シメ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上30種）
- ・メモ：橋本祐子さんが作成した絵を使って水鳥の説明をしました。

○三重愛知合同木曾岬・鍋田干拓地探鳥会

- ・日時：1995年1月22日（日）雨 10:00～12:00
- ・担当：藤田克三
- ・参加者：（三重1名、愛知6名）

- ・観察種：カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロキンクロハジロ、オオタカ、ノスリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、キジ、ケリ、タゲリ、イソシギ、タシギ、アオシギ、ユリカモメ、オオセグロカモメ、カモメ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ホオジロ、オオジュリン、カワラ



ヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上42種)

- ・メモ：朝から雨の最悪の探鳥会でした。それでもノスリ、ヤチュウヒが何度も顔を出してくれました。今年も鳥達にかわってよろしく願いいたします。

○南部丘陵公園（四日市市泊村）探鳥会

- ・日時：1995年1月26日（木）晴時々曇 10:00～12:00
- ・担当：木村京子、濱中明代
- ・参加者：

(以上18名)

- ・観察種：キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、マヒワ、ベニマシコ、ウソ、イカル(?)、シメ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上22種)
*参考—この他にアリスイと思われる声とヒガラと思われる声を聞いたが、確証はない。
- ・メモ：シロハラが木の葉をひっくり返してえさを探しているのを、みんなでじっくり観察した。アオジやジョウビタキもよく見ることができた。ウソやベニマシコの声も聞こえたが、姿を見ることができなく、残念!!

○亀山（亀山市）金曜探鳥会（椿世—亀田）

- ・日時：1995年2月3日（金）晴 09:00～12:00
- ・担当：楢原葵
- ・参加者：

(以上12名)

- ・観察種：カワウ、コサギ、オオタカ、ケリ、クサシギ、タシギ、キジバト、カワセミ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、マヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上32種)
- ・メモ：昨日の下見では24種見ただけだったので、今日は期待できなかったが、しかし開いてみると、人の目の多さもあってか32種見られた。今回ミヤマホオジロは見られなかったが、ルリビタキは全員でゆっくり観察できた。

○磯津（四日市市）のカモを見る

- ・日時：1995年2月7日（火）10:00～12:00
- ・担当：鹿島素子
- ・参加者：

(以上11名)

- ・観察種：カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、バン、オオバン、ケリ、タゲリ、イソシギ、タシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス (以上38種)
- ・メモ：今冬期の養魚池は、中心部の池の水がすっかり干されており、遠慮がちに入っている奥まった池の間近かで、廃材を燃やす大きな炎に驚いて、カモ達は海上へ飛び去ってしまった。頭上を何拾羽と群れて飛び去るカモ達の翼の風を切る音が耳に悲しかった。

○龜山（龜山市）水曜探鳥会（江ヶ室～龜田町～若山町）

- ・日時：1995年2月15日（水）快晴 09:00～12:00
- ・担当：榎原泰
- ・参加者：

（以上15名）

- ・観察種：カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コジュケイ、バン、ケリキジバト、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、ウソ、シメ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上30種）
- ・メモ：1. 今日の見どころとしてアオバト、シメの群をあげたが、アオバトは見られず、シメの群れも小さくなっていた。
2. ウソは終了直後に発見した。その中にアカウソが混じっていた。

○篠田山（松阪市）平日探鳥会

- ・日時：1995年2月16日（木）晴 09:30～11:30
- ・担当：宮田たつ、中村洋子
- ・参加者：

（以上10名）

- ・観察種：キジバト、コゲラ、セグロセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、エナガ、ヤマガラ、メジロ、ミヤマホオジロ、アオジ、カワラヒワ、ウソ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上18種）
- ・メモ：ルリビタキが茂みから出て木の枝にとまってくれたので、前から、横から、後ろからしっかり観察できた。ウソも「フィフィ」と鳴き、よく見えて、今日のメインはルリビタキとウソでした。会員外の方々がとても喜んでくださり、入会案内を渡すことができました。初めての方は前日電話で照会がありました。

野鳥情報

○タゲリ（幼鳥）	2	1994年11月9日	内部川河口	（四日市市）	吉川 豊
○コゲラ	1	11月26日	県民の森	（菰野町）	矢田栄史（注1）
○ルリビタキ	1	12月2日	県民の森	（菰野町）	矢田栄史
○シロハラ	2	12月17日	笹川1丁目	（四日市市）	濱中明代（注2）
○ダイシャクシギ	1	12月19日	朝明川河口	（川越町）	尾畑玲子、矢田栄史
○アカゲラ	1	1995年1月7日	大山田	（桑名市）	藤田克三（注3）
○ゴジュウカラ	1	1月8日	県民の森	（県民の森）	矢田栄史
○アオゲラ	3	1月9日	県民の森	（菰野町）	矢田栄史
○アオゲラ	♀1	1月12日	県民の森	（菰野町）	矢田栄史
○シロハラ	1	1月14日	大山田	（桑名市）	藤田克三
○ルリビタキ	2	1月19日	南部丘陵公園	（四日市）	濱中明代、高和義
○ミヤマホオジロ	4	1月19日	南部丘陵公園	（四日市）	濱中明代、高和義
○ベニマシコ	7	1月19日	南部丘陵公園	（四日市）	濱中明代、高和義
○ミヤコドリ	1	1月20日	朝明川	（川越町）	尾畑玲子（注4）
○アリスイ	1	1月20日	南部丘陵公園	（四日市）	濱中明代、尾畑玲子
○アカゲラ	3	1月26日	南部丘陵公園	（四日市）	榎原泰他5名

- (注1) 木の幹に巣穴を掘っていて、木くずを外へはじき出していました。
残念ながら、1/12には、その巣穴の部分から枝が折れていました。
- (注2) 庭の餌台に2~3羽、連日来ています。
- (注3) 大山田団地内で初めて観察。
- (注4) 例のミヤコドリまだいますよ。「野鳥」1月号 FIELD NOTE に掲載。

訂正 (「しろちどり」5・6・7号の訂正)

○ホトトギス、カッコー、ツツドリの野鳥情報の訂正とお詫び

雨の日以外は4月5日以来11月3日まで、いつ何時に行っても5~6分待てば鳴き声が聞こえます。場所は「本誌」第5号P16と同じ。9月は15回、10月には20回(1日1回)確認に行きました。もしや越冬?

菟野町湯の山温泉近くのゆずりは荘前のゆずりは谷で4月から報告されていたホトトギス等の声は、ご本人から「ゆずりは荘係員面接、調査した結果、コンパクトディスクによる声であることを確認いたしました。」と連絡をいただきました。誤情報の掲載お詫び申し上げます。

**「ヒュッテ・フォーマサンヒロ」
いよいよ屋久島で開業へ**



加藤征甫

三重野鳥の会の当時から、長く幹事などで活躍していただいた水野明紀君が、屋久島でヒュッテを開業するという件は、皆さん聞き及んでいられることと思いますが、ここへきてやっと具体化し、ホントに開業するらしいのでご報告いたします。

長年勤めた会社を、奥様(洋子さん)に相談もせず突然やめて、「ボク、ペンションがやりたいの!」と言いだしたのは、ちょうど1年前でした。調理人を雇って、本人は電話番だけのペンションだと思ったら、料理も自分ですするという。けが人や腹下しの客が出る前にやめろやめろと押し留めましたが、言いましたらあとに引かないのが唯一とりえの男で、とうとう家人帯同で(しかもお嬢さんの央海ちゃんまで連れて)屋久島で開業に漕ぎつけたようです。

以下、彼のペンション、正式には「ヒュッテ・フォーマサンヒロ」の概要を紹介しますので、ぜひ応援してあげてください。

なお、三重県支部会員には、宿泊中、食事の後片付け、ふとんの上げ下ろし、お風呂掃除など、普段やったこともないようなことが、なんと自分でやれるという、うれしい特典付きです。

正式の案内状などは、近々出されるそうで

すが、屋久島は日本初の「世界遺産」に登録されたほどの自然の宝庫。たくさんの鳥たちに会える島でもありますので、ぜひ訪れたいところです。

名称:ヒュッテ フォーマサンヒロ
所在地:

電話:
FAX:

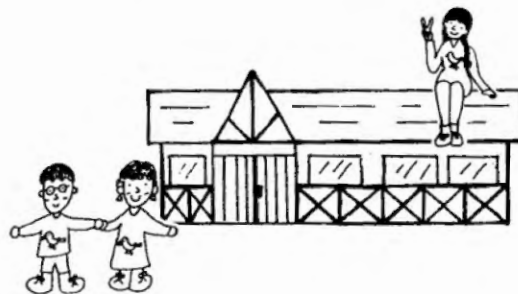
開業:1995年5月1日(月)
宿泊料:7,000円(1泊2食付き)

チェックイン・アウト:15:00~10:00

パジャマはご準備下さい。

お風呂はいつでも入れます。

(1995年3月31日までは、
電話 へお願いします。)



お知らせ (事務局から)

探鳥会予定 ○石垣池 (鈴鹿市) 探鳥会

- ・日 時：1995年3月19日 (日) 10:00～12:00 雨天中止
- ・場 所：石垣池駐車場 (池の北東)
- ・担 当：市川雄二 (電話)

日本野鳥の会 阪神大震災義援金にご協力をおねがいたします。

このたびの大震災では、多くの会員やそのご家族の方々が多大な被害を受けた模様です。また、本会兵庫県支部 (重政慶三支部長・会員数約1,700名) も、支部の事務所が入居していた神戸市内のビルが損壊し、立ち退かざるを得なくなるなど、甚大な被害を受けました。

そこで、本会の理事会の発案により、兵庫県支部の一日も早い再建を主な目的として義援金を募り、できる限りの応援をすることになりました。どうぞ全国の会員の皆様の暖かいご支援をお願いいたします。

ご送金は 郵便振替口座 00130-7-36732
加入者名 日本野鳥の会阪神大震災義援金
受け付け 1995年4月末日まで

☆お寄せいただいた義援金の具体的な用途については、関係支部と協議の上決めさせていただきます。

また、募金の結果については「野鳥」誌上で報告いたします。

☆物品の寄贈はご遠慮願います。

☆本会に対する寄付ではありませんので、免税の扱いにはなりません。

問い合わせ先：(財)日本野鳥の会 総務部
電話 03-3463-8998

「シギ・チドリ採餌生態調査研修会」

日 時：1995年3月19日 (日) 10:00～11:30 (野鳥観察館-室内研修)
13:00～15:00 (藤前干潟-現地実習)

講 師：桑原和之 氏 (千葉県中央博物館)

連絡先：

藤前干潟生態調査の一環として、昨年一度だけトライした採餌量調査 (鳥たちがどんな餌を、どの位の量を食べているか?) はなかなか難しく、十分なデータが得られませんでした。今年、この道第一線の研究者 桑原さんに教えていただいて、再挑戦したいと思います。関心ある方、この機会にぜひ参加し一緒にやってください。

「藤前干潟生きものまつり」に来て下さい! 藤前干潟を守る会代表 辻淳夫

藤前干潟は、いよいよ瀬戸際に立たされています。縮小したとはいえ、渡り鳥や干潟生態系に致命的な52%のゴミ埋め立て計画のアセスメント (環境影響評価) 手続きが進められようとしているからです。

アセスメントは環境への打撃、得失の全てを明らかにして計画の是非を判断するためのものですが、事業実施を前提に、事業主体である名古屋市が自ら実施し、自ら審査するのでは、科学的で公正な評価になりません。干潟生態系のはたらきや多様な環境価値の調査、代替案との比較検討など、私たちの出した要望はすべて拒絶されました。

手続上では、市民が意見をいえる機会は一度しかありません。藤前干潟を残そうとするなら、この手続

きのほかでもいかに声を上げ、市民の意志を明確にするかにかかっています。

藤前干潟のすばらしさを良く知っていただくために、この春、干潟が一番にぎわうとき、渡り鳥やカニやゴカイたちの”生きものまつり”を開きます。藤前を訪れる最良の時です。貴会でバスツアーなどを企画していただくとか、会誌などに案内して下さることを心からお願いいたします。

春の藤前干潟生きものまつり ——1万キロを旅する渡り鳥の歓迎会——

いつ：1995年4月29日（土）みどりの日 10:00～14:00

どこで：藤前干潟 堤防

なにを：シギ・チドリ観察会、カニカニウオッチング、ネイチャーゲームなど
もちもの：お弁当、水筒、あれば双眼鏡

参加費：100円

問い合わせ：藤前干潟を守る会（辻）

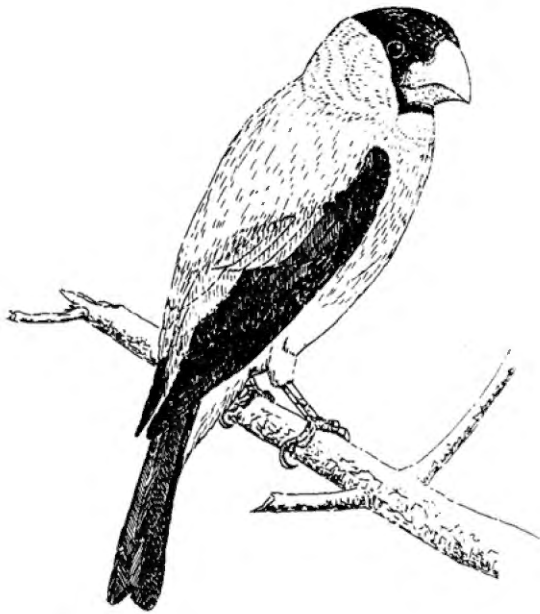
電話 FAX

交通：名古屋名鉄バスセンター3F

三重交通長島温泉行き

毎時 03、20、33、50分発（南陽町藤前下車 徒歩7分）

（35分 200円）



事務局便り

今年度もあと少しで終わりです。火曜日の事務所での作業に足を運んでくださった方々、ありがとうございました。来年度もよろしくお願いします。

また、今年度で現在の役員の任期は終わりますが、次期役員が総会で決定されるまで、現役員で運営していきます。

来年度の三重県支部総会は、4月16日（日）に三重県労働福祉会館（津市）で開催します。総会については後日案内を出しますので、必ずご出席ください。

三重県支部では本部発行の図書等を取り扱っております。事務所にも置いてありますが、一部の探鳥会にも持って行ってありますので、ご希望の方はご購入ください（現金と引き換えの手渡しに限ります。送付はできません）。この売上金の一部は支部の財源にもなっていますので、皆様のご協力をお願いします。

三重県支部オリジナル！！「シロチドリ」ステッカーもまだ在庫があります。この収益は、三重県の鳥シロチドリの保護に使う予定です。どうか、寄付のつもりでお買い求めください。そして、これからのシロチドリ保護実行委員会の活動に、みんなで参加・協力していきましょう。

編集後記

5,000人を越える死者を出した阪神大震災。四日市市の人口と同じくらいの人々が避難生活を送っているという事態になりました。この方々にたくさんの援助の手が差しのべられているのは当然ですが、やむなく置き去りにされたイヌやネコたちを保護している人もいると聞いて、ほんの少しホッとしています。激変した環境の中で冷静に対処している被災者、救援のために黙々と作業をしている関係者の皆さんに敬意を表するとともに、私たち一人一人が物質面だけでない息の長い援助を続けなければならないと思います。

さて、北勢ブロックの「しろちどり」の編集もこれが最後、次号（9号）からは南勢ブロックに代わります。この2年間、皆さんに助けられて何とかやって来ましたが、改善すべきたくさんのご意見をいただきながら、紙面に生かせなかったのが残念です。今後も皆さんのご協力をお願いいたします。

表紙絵：平井正志
題字：濱田 稔
カット：鹿島素子、平井正志



「しろちどり」第8号

1995年 2月発行

発行者：（財）日本野鳥の会三重県支部
〒516三重県伊勢市

杉浦 邦彦 方
TEL.

【事務局】

木村 京子 方
TEL.

編集：中村 誠

印刷：館 印刷 〒510-13三重郡菰野町田口1903-3